

第157号 2005年 7 月15日

こ た ま

ISSN 0915 - 8782



目 次

自由の精神 - 西田と大拙に学ぶ (竹村 牧男)	2
「Article Linker」の導入について	4
本学教官著作等寄贈図書リスト (2005年 1 月 ~ 5 月)	7
図書館のトピックス	
自然科学系図書館に絵画寄贈	8
見学者, 自動化書庫に驚きの声!	8
四高図書 (洋書) のデータ登録開始	8
医学部分館にブックポスト設置	8
としょかん日誌 (2005年 4 月 ~ 6 月)	8



留学生オリエンテーション

第56回 金沢大学暁烏記念式記念講演（要旨）

自由の精神 - 西田と大拙に学ぶ

東洋大学教授 竹 村 牧 男

1 暁烏敏と西田・大拙

暁烏敏の日記の、明治三十六年十一月十四日の記事に、「三々塾に行く。……西田幾多郎、石川と初対面」とある。しかし、暁烏敏「西田幾多郎氏の追憶」には、「私が西田さんと初めて逢ったのは、明治三十四五年の頃であつたと思ふ」と記しており、三々塾のことなどが記されている。それは、あながち間違いのようにも思えない。暁烏敏は、その文の最後に、「最後に西田さんに逢つたのは昭和十五年の三月であつた。氏の鎌倉のお宅を訪ねた時、私の顔を見るなり、盛に話しかけられた。その時に随行してゐた学生が、西田先生のこんなに機嫌の好い顔を見たことがないと言つた」等と述べている。晩年の西田は、暁烏敏と、心を通い合わせていたと思われる。西田・大拙と、東本願寺系の主だった人とは、緊密な交際を果たしたのであつた。

2 西田・大拙の青年時代と自由

西田は、当時武断的になってきた第四高等学校を退学してしまう。そのことについて、西田は「かかる不満な学校をやめても、独学でやつて行ける、何事も独立独行で途を開いて行くと云ふ考であつた。憲法発布式の日に、我々数人で頂天立地自由人といふ文字を掲げて、写真をとつたこともあつた」と述べている。（「山本晁水君の思出」）

一方、大拙は、語学の勉強から「自由」ということを学び、自由へのあこがれを強めて行つ

た。エマソンの言葉に感激し、「これがセルフ・レライアンスだ、これが本当の自由だ。これが本当の独立不羈なるものだ。小さいと云つて自ら卑しめるに及ばぬ。……」と感激したのだという。（「明治の精神と自由」『東洋と西洋』）

これらの背景には、明治の初年から三十年くらいまで続く、国家や個人等の各層における不羈独立への関心があつた。西田と大拙の思索の根底には、こうした自由の追求が流れていた。

3 大拙思想における自由の思想

大拙は、西洋のフリーダムやリバティと、本来の自由とは異なるという。西洋のそれらは、「圧迫から離れるといふやうな意味で、そこに消極性をもつてをる」と指摘する。これに対し、本来の自由は、もともと『臨濟録』等によく出る仏教語であり、それは、「自分から出てくるといふことであ」り、「おのづからそのものがそのものであるといふ、それをさして自由といふので」とあるという。「そこに内面性があつて、圧迫から離れるといふことではなくして、積極性で、自然にそのものになる。柳は緑、花は紅、松は松、竹は竹といふことになる。その自然性といふものを含めて、自由といふことが出てくる」と説くのである。（『東洋の心』）

さらに大拙は、この自由は、空ということに裏づけられてのことだと説く。その点について、「四苦八苦の娑婆の真中へ飛び出て、堪へ難きに堪へ、忍び難きを忍び、刻苦精勵して、人間のため、世界のため、何か大慈大悲底の仕事を行ずるのである。さうして行動は報いを求める

行動でない、無目的の目的で働くのである。これを無功用行といふ。自由性の発動である。松はその松たる所以を自覚せず、竹はその竹たる所以を意識しないで、松になり、竹になつてゐるやうに、仏や菩薩は達磨の「無功德」と「不識」とで、慈悲行三昧である。これを創造の生涯といふのである。詩の境涯である。一行三昧ともいふ。神通遊戲ともいふ。「水を汲み薪をはこぶ」の妙用ともいふのである。これはいづれも「空」の座にすわつてゐないとできないのである」と説明している。（『東洋的な見方』）こうして、菩薩の自由は、むしろ「願って悪趣におもむく」願生の菩薩の自由となるのである。

4 西田における自由の思想

一方、西田の哲学は、場所の哲学とよく言われるが、それは同時に個物の哲学であり、そこに、自由の追求の意味がある。西田には、西田独特の自由論があった。その考えは難解であるが、カントのただ実践理性にしたがうのみの自由ではなく、本能にも理性にも究極の拠り所を持たない無底にありつつ、現実世界の自他関係においてそのつど自己規定していくことといえそうである。西田の自由論は、西田独自の平常底の宗教哲学と緊密に結びついたものであった。

5 自由から自主へ 大拙の社会観

その西田の自由論を、ある意味で平易に解説したものが、大拙に見られる。それは、次のような言葉である。「私利私欲の人でも自主的に考えることは可能であるが、彼は自らの主人公にはまだなつて居ない。彼はいつも自利的な物の見方をして居る。自利的に物を見ると云ふことは、本能的に自らに使はれて居ると云ふことである。自分の主人公となる人は、自分を使ふことの出来る人である。自分を社会の一員として、自分の思惟と行為は社会的に環境的に働きかかるもの、また働きかけて共同生活に意義を持たすべきものと考える人は、自利的な考へ方

をなさないのである。自利自愛の心に自ら限定を加へ得る人でないと、自ら主人公となつたとは云はれぬ。……かうなると、自ら主人公となることは、他をしてまた他自らの主人公たらしめることでなくてはならぬ。これはどのやうな意味かと云ふに、自らを重んずるは他を重んずるものであると云ふことである。」（『自主的に考へる』）自己が本能的欲望に縛られることなく、さらに他をして主人公たらしめるところに、自由のあり方が実際に現実化するのである。

結

効率主義・業績主義一辺倒の競争社会となり、多くの問題をかかえる現代社会において、自己の存在の意義を深く自覚しつつ、さらに自他のあるべき関係を創造していけるような主体の実現を、どのように展望していくかは、緊要の課題である。明治以来の近代化の中で、本質的な問題を考え続けた西田・大拙の思想に学ぶことは、きわめて大事なことであろう。

（たけむら まきお）

講師略歴

東京大学文学部印度哲学科卒業、東京大学大学院人文科学研究科印度哲学専修過程博士課程中退。東京大学文学部助手、文化庁文化部宗務課専門職員、三重大学人文学部助教授、筑波大学助教授哲学・思想学系、同教授を経て、2002年4月から東洋大学文学部教授。この間、高野山大学、日本大学、金沢大学、成城大学、北海道大学、東京大学等の非常勤講師を勤める。

1986年 日本宗教学会賞受賞

『大乘起信論読釈』山喜房仏書林、1985年
1993年 『唯識思想論攷 三性説の哲学的究明』
により、博士（文学）〔東京大学〕

～ 目的の電子ジャーナルへナビゲート～ 「Article Linker」の導入について

【はじめに】

本学では、今年度「金沢大学学術基盤整備計画」を実施し、電子ジャーナルタイトル数が昨年度の約1,400タイトルから2,800タイトルあまりまで増えました。来年度にかけてさらにタイトル数を増やしていく予定です。

電子ジャーナルのタイトル数が増えれば増えるほど、利用者の皆さんが目的とする論文を容易に入手するために、出版社ごとの**電子ジャーナルを横断的に検索**し適切な情報にたどり着くことができる**ナビゲート機能の充実**が必要になります。また、電子ジャーナルが利用できないことがわかったときには、本学や他大学の雑誌の検索、さらには複写の申込などのほかのオプションを示すことも重要になります。

本学では今年度から、こうしたナビゲーション機能を充実させるため、「Article Linker」という製品を導入しました。

【Article Linker とは】

Serials Solutions 社が提供する論文リンクツールです。簡単な操作により、論文データベースの検索結果から目的とする論文の全文表示までたどり着くことができます。

【Article Linker を使った検索例】

以下、実際の検索手順と画面の実例をご紹介します。

- (1) Scopus, Cinahl, Sociological Abstracts などの本学で利用できる論文データベースや、フリーで利用できる Google Scholar などで論文を検索します。

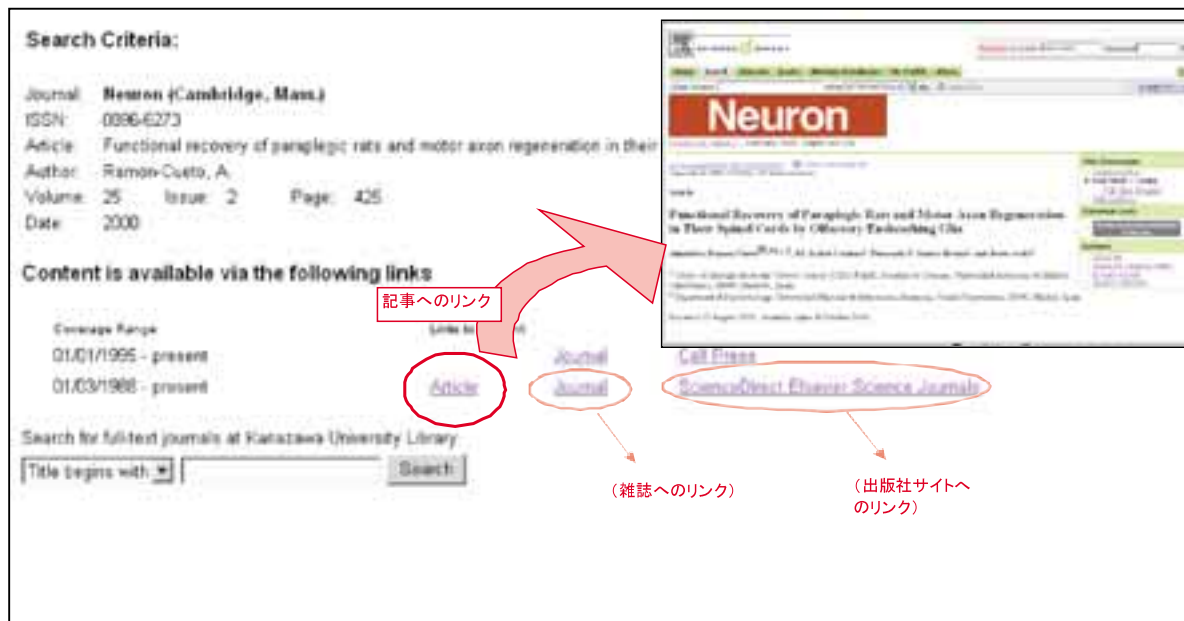
本学で利用できる主なデータベースは図書館ホームページ上で紹介しています。



- (2) 検索結果画面が表示されたら , [ARTICLE LINKER](#) や「Full Text」のアイコンをクリックします。



- (3) 本学で利用可能な電子ジャーナルかどうか , 検索結果が表示されます。
 本学で閲覧できる電子ジャーナルの場合 , 書誌情報に続いて全文へのリンクが表示されています。「Article」をクリック すると , この論文記事の全文表示画面へジャンプします。



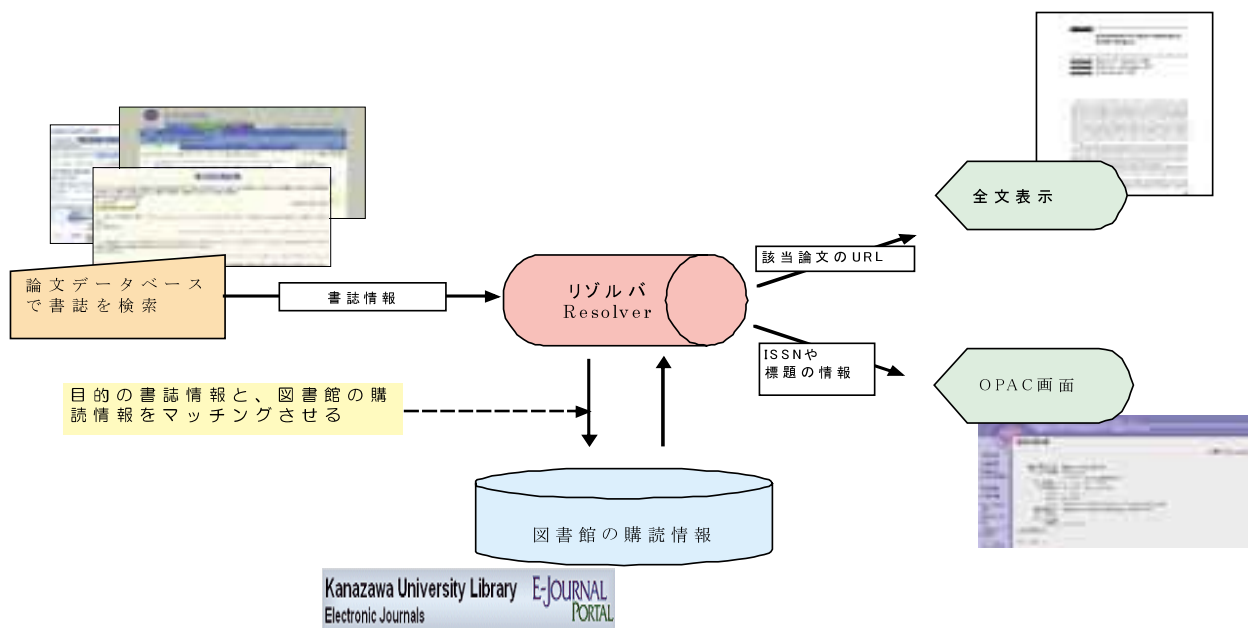
データベースによっては , 「Article」のアイコンが表示されないことがあります。そのような場合は , 「Journal」や「Resource」の出版社サイト名 (パッケージ名) をクリックし , 各雑誌あるいは出版社のサイトから該当の巻号をたどってください。

(4) 本学で利用できない電子ジャーナルの場合、以下のオプション画面に進むことができます。

- 本学 OPAC 検索
- ILL 利用申込画面
- その他の検索データベースへのリンク

【おわりに】

参考までに、「Article Linker」のような製品を使った場合の検索の仕組みについて、全体の流れ図を示します。



リンク元とリンク先の間に、「リゾルバ」といういわば仲介役となるシステムが設置されているのが大きな特徴です。このような仕組みにより、ばらばらに点在する各種サービスがつながり合わせられ、起点となるデータベースから目的の論文まで、容易にたどり着けるようになっています。

(雑誌情報係 伊川麻里子)

図書館ホームページ <http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/>

ありがとうございました 本学教官著作等寄贈図書リスト

2005 / 1 ~ 2005 / 5

三井徹（名誉教授）編

ポピュラー・ミュージック・スタディズ

音楽之友社 2005 .3

（図書庫764 .7 : P831）

A guide to Popular music in Japan

IASPM-Japan, c1991

（図開架767 .8 : G946）

ポピュラー音楽とアカデミズム：三井徹退職記念論文集

音楽之友社 2005 .6

（図開架764 .7 : P831）

中垣良一（大学院自然科学研究科教授）共同執筆

物質の物理的性質（物理系薬学；1）

東京化学同人，2005 .2

（図書庫499 : B981）

島田昌彦（名誉教授）編

日語标记规范辞典

大连理工大学 2004 .10

（図参考813 : N594）

恵土孝吉（教育学部教授）著

勝者の 戦術 上，下

펜타곤 2004 .9

（図書庫789 .3 : E24 : 1 / 2）

恵土孝吉（教育学部教授）共同執筆

和文化：日本の伝統を体感する QA 事典

明治図書出版 2004 .10

（図書庫382 .1 : W112）

恵土孝吉退官記念誌

恵土孝吉 2004

（図書庫377 .13 : E24）

本净高治（大学院自然科学研究科教授）共著

基礎分析化学

化学同人，1998 .11

（図書庫433 : K61）

化学の目でみる物質の世界

内田老鶴圃，2003 .4

（図開架430 : K11）

加藤和夫（教育学部教授）共同執筆

みんなで学ぼう！金沢ことば

金沢大学教育学部国語教育講座 2005 .3

（図開架818 .43 : M665）

坂村喜将（就職支援室）著

坂村喜将詩集：甦る日々そこにはいつも母がいた

朋友印刷 2004 .10

（図書庫911 .56 : S158）

坂村喜将詩集：明日に吹く風

朋友印刷 2004 .10

（図書庫911 .56 : S158）

李 慶（外国語教育研究センター）著

转折和发展（日本汉学史 第3部）

上海外语教育出版社 2004 .6

（図開架919 : N719 : 3）

生田宗博（大学院医学系研究科教授）編

ADL 일상 생활 활동 방법론：작업치료어

전략・전술・기술

영문출판사 2005

（図開架494 .78 : A237）

古畑徹（文学部教授）共著

日本と朝鮮（古代を考える）

吉川弘文館 2005 .1

（図開架210 .3 : N719）

中西孝（大学院自然科学研究科教授）分担執筆

分析化学

朝倉書店 2004 .10

（図開架433 : B942）

村井淳志（教育学部教授）共著

いのちって何だろう：学校・家庭・戦場で子どもとともに

コモンズ 2004 .6

（図開架114 .2 : M972）

馬淵宏（大学院医学系研究科寄附講座教員）著

私のコレステロール研究物語

ライフ・サイエンス 2005 .3

（医図書 QU95 : M112）

（図書庫493 .2 : M112）

高脂血症入門

文光堂 2005 .3

（医図書 WD200 .5 : M112）

（図書庫493 .2 : M112）

泉キヨ子（大学院医学系研究科教授）編

エビデンスに基づく転倒・転落予防

中山書店 2005 .5

（医保図書室 492 .9 : E16）



図書館のトピックス



自然科学系図書館に絵画寄贈

平成17年4月にオープンした自然科学系図書館に、工学部OBの橋詰忠雄氏より絵画を寄贈していただきました。タイトルは「生いずる処」



(右から2人目が橋詰氏)

で、画面いっぱいの緑の色彩が若い世代の希望にあふれる未来を象徴しているようです。絵は図書館入口に入ってすぐ右に展示されていますので、一度じっくりご覧ください。

見学者、自動化書庫に驚きの声！

5月16日、自然科学棟と創立五十周年記念館竣工記念祝賀会が行なわれ、学内外から150名余りが出席し完成を祝いました。この祝賀会に先立ち行われた自然科学系図書館の見学では、OPAC画面で指定した資料を、自動化書庫からカウンターまで取り出す実演が行なわれ、訪れた方々は熱心に見入っていました。

四高図書（洋書）のデータ登録開始

平成16年度より国立情報学研究所の遡及入力事業の一環として、本学の旧制第四高等学校蔵書のうち未登録であった洋書約2万冊の登録が開始されました。すでに、青島文庫と四高図書（分類番号1：20：14～6：22：715）の約6,000冊の登録が終わり、OPACでも検索可能となりました。今年度も引き続き6,000冊の登録が行なわれる予定です。

第四高等学校の蔵書は、明治から昭和にかけて収集された各分野の基本文献を揃えており、歴史的・資料的価値も高く、学習・研究において役に立つものと期待されます。是非ご活用ください。

医学部分館にブックポスト設置

医学部分館では、4月から返却ポストの運用を開始しました。

夜間、休日等の閉館時にも返却できるようになりましたので、ご利用ください。



としょかん日誌（2005年4月～6月）

4月21日 第56回北信越地区国立大学図書館協議会（上越マンテンホテル）橋本哲哉（館長）、由良信道（情報部長）、木下聡（図書館サービス課長）、内島秀樹（情報企画課長補佐）出席

5月26日～27日 第26回EDCセミナー（同志社大学）巖本康治（参考調査係長）参加

6月22日 機関リポジトリとメタデータ－研究成果情報の組織化と発信に関するワークショップ（国立情報学研究所）内島秀樹（情報企画課長補佐）出席

6月29日～30日 第52回国立大学図書館協会総会（名古屋大学）橋本哲哉（館長）、由良信道（情報部長）、鈴木太郎（情報企画課長）、木下聡（図書館サービス課長）出席

金沢大学附属図書館報「こだま」第157号

発行：金沢大学附属図書館 編集：広報委員会

〒920-1192 金沢市角間町 電話 076-264-5200

ホームページURL <http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/>

電子メールアドレス etsuran@ad.kanazawa-u.ac.jp

読者の皆様からのおたよりをお待ちしております。

2005年7月15日発行

印刷：株式会社 橋本確文堂

表題地模様©Toku Yusui(加賀友禅染絵『さやぐ、おどる』。由水十久(初代。1913-1988)は金沢出身の加賀友禅作家です。)